

第2回尾張旭市総合計画審議会（第3部会） 会議録

- 1 開催日時
令和5年7月31日（月） 午後1時30分から3時15分まで
- 2 開催場所
尾張旭市役所南庁舎2階203会議室
- 3 出席委員
岡崎 信久、佐藤 庸子、高橋 芳江、三浦 哲司、山本 恵美子 5名
- 4 欠席委員
0名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した職員等
企画課長 谷口 洋祐、政策企画係長 田中 広樹、
政策企画係主査 北川 歩、政策企画係主事補 伊藤 舞香、
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)名古屋 河合 修治
- 7 議題等
 - (1) 基本目標7及びその施策に関する調査審議
 - (2) 「めざすまちの未来像」「まちづくりの基本方針」に関する調査審議

会議の要旨

企画課長	<p>本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから、尾張旭市総合計画審議会第3部会の第2回目の部会を開催させていただきます。</p> <p>開催に先立ちまして、本日は、企画部長が他の公務により、欠席とさせていただいておりますので御了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、企画課の職員他に、本市の総合計画の策定を支援していただいている三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋の河合様にも同席いただいております。</p> <p>それでは、三浦部会長、進行をよろしくお願いいたします。</p>
三浦部会長	<p>それでは、始めたいと思います。第2回目の部会となりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>前回は2つのテーマについて調査審議をしていただきま</p>

	<p>した。前回と同様に、本日は基本目標7の「産業・にぎわい・多様性」の分野の調査審議を行ってまいりたいと思います。</p> <p>総合計画は、行政計画というよりは、様々な方々の役割が大切になってきます。行政だけの計画というよりはまち全体の計画となってまいりますので、皆さまから御意見をいただき、尾張旭市を発展させていきたいと思ひます。</p> <p>お手元の次第を御覧ください。前回は基本目標の5と8の審議を行いました。次第の2「議事」にもありますように、本日は、基本目標7の産業・にぎわい・多様性の部分を取り扱ってまいります。そしてもう一つとして、「めざすまちの未来像」と「まちづくりの基本方針」について改めて御発言等をいただければと思ひます。</p> <p>部会の流れといたしましては、前回と同様、基本目標7について、企画課から主要な部分の説明を受け、その後、施策ごとに区切り、皆様からお気付きの点など御意見をいただく形で審議を進めていきます。部会資料3の48ページになります。それから資料8も使用しますのでお手元に御用意ください。企画課から説明をお願いします。</p>
政策企画係長	(部会資料3) 施策別指針(素案)48ページから55ページまで、資料8 基本構想(素案)7ページ上段に基づき、基本目標7及びその施策について説明)
三浦部会長	<p>ただいま、企画課から基本目標7について、説明がありました。</p> <p>それでは、ただいま説明のあった部分について、施策ごとにお気付きの点や御質問、御意見や事実関係の確認等、御発言をいただき、その後、基本目標についても同様に御意見等をお伺いしていきたいと思ひます。</p> <p>まず初めに部会資料3の施策7-1から7-4までを調査審議し、その後、資料8の該当部分について調査審議いたします。</p> <p>それでは、48、49ページの施策7-1「商工業の振興」について、御発言をお願いしたいと思ひます。</p>
岡崎委員	7-1-3「創業者への支援」について、その対象について伺います。これは、新たに尾張旭市で起業する人を捉えているのか、すでに存在する企業を市内に誘致するという考え方は入っているのか、その両方なのか伺いたいと思ひます。
企画課長	いずれもこの「主な取組」で進めていきたいと考えています。
岡崎委員	「指標」を見ると、「創業支援を受けた創業者の数」として創業した人が対象になっていますが、取組の内容とし

	<p>ては、企業誘致に関することも含んでいるということですね。</p>
三浦部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、お話があったのは、いわゆるスタートアップのような創業だけでなく、既存の事業者さんたちが工場を尾張旭市に建てることにに対してサポートをしていくという意味合いもこの「主な取組」に含んでいるということでした。</p>
岡崎委員	<p>土地を確保し、そこに建物を建てることだけを起業という風に認知されがちですが、尾張旭市には土地があまりなく、様々な制限もあります。見方を変えると、モノづくりだけが企業でなく、例えばソフトウェアの開発等は、場所に依存しない、パソコンだけあれば運営できる企業もあり、こういった分野は日本人でない方たちの方が優秀だったりします。こういった企業を誘致することを考えると幅が広がるのではないかと考えています。</p> <p>多くの方の思考の中にはモノを作って、それを売るというイメージがあるので、「指標」も「工場製造品出荷額」等になりますが、モノだけが「指標」になることに違和感があります。また、こういった企業は見方によって、空き家対策にもつながると思います。</p>
企画課長	<p>岡崎委員の御意見のとおり、産業誘致ということになると従来は広大な面積が必要で、工業団地の建設などを含めて土地利用の規制ですとか、都市計画上の課題などがございました。一方で、本市は比較的住宅都市としてまちづくりを進めてきたこともあり、商業・工業の誘致についてはこれまでの50年のまちづくりでは大きく旗をあげて進めてきたわけではありませんでした。最近の大きな変化としましては、市の中央部に工場が拡張されるということが予定されています。時代の変化の中で工業だけでなく、商業の中でも大きな敷地を必要としない、それこそパソコン1台あれば様々なことができる、デジタルによる変革が起こっています。こういった意味では、商工業のあり方が変わってきていると思います。</p> <p>愛知県に目を向けると、創業の支援については様々な取組が進められていると思います。本市でも、この分野については、勉強しながら、これまでの常識にとらわれない形での創業者の支援、事業継続の支援を行っていく必要があると庁内でも検討をしているところです。</p>
岡崎委員	<p>県では、自動車のほか、航空宇宙産業などを中心にしていくのかと思います。</p> <p>尾張旭市には土地がないので、例えばソフト的な部分で誘致ができるのであれば良いのではないかとと思います。</p>
山本委員	<p>この施策をみると、地域が一体となって商工業の振興をしていくという形に感じました。瀬戸市では、起業したい人が有志で集まり、自分たちが失敗しそうな、保険や賃</p>

	<p>金、雇用について話すことや、起業前に企業セミナーを有志の方がやっていたので、上手く立ち上げをすることができています。地域で一体となり商工会を盛り上げていこうという風に進んでいます。</p> <p>尾張旭市では、市の方で土地など様々な情報を提供して起業を支援するのかなと思いました。その他に、起業された方がセミナーを開いて、今から起業したいと思っている若者たちの手助けをするということなのかなと思いました。</p> <p>大企業の誘致というよりは、近所にこんなお店ができたとか、こういう人たちが頑張ってくれているとか、地元の人たちがみんなで支え合って商工会を盛り上げていくための一歩とするためのものなのかなと思いました。</p> <p>岡崎委員のお話を聞いていると、対象者が読み手によって違ってしまおうと感じます。その部分を具体的にすることによって、参加しやすいと感じてもらえることや、こういう支援をしてもらっていると感じてもらえそうです。</p>
企画課長	<p>市内の商工業者の方々は新型コロナウイルスによりかなりダメージを受けています。コロナ禍において借りたお金の償還がそろそろ始まってくる時期になり、大変な部分が多いと思います。</p> <p>本市では、これまで商工会に加盟していただいている事業者が市内の商工業の担い手の中心であったと思います。一方で、コロナ禍で市と直接やり取りをする中で、事業者と顔が見える関係ができてきたと聞いています。そういったところから、商工会と市、そして商工会に入っていない事業者とのつながりを継続していくような形をとっていきたいと思っています。</p>
三浦部会長	<p>ありがとうございました。確かに瀬戸市だと若い人の古着や自転車などの起業があると聞いています。そういった意味では、尾張旭市としてどういった方に起業支援をするのかを考えていくのは重要かなと思います。</p>
岡崎委員	<p>瀬戸市は商店街があって、空き家をなくそう、シャッター街をなくそうという視点からの発想があると思いますが、尾張旭市は商店街があるけれども、ここだという明確なものがないことを考えると、瀬戸市のようなやり方は難しいと思います。そういったことから、もう少し民間活用をしっかりとした方が良いのではないかなと思う。</p>
政策企画係長	<p>商工会と市で創業セミナーを進めています。創業セミナーは、創業者を巻き込んだ取組が必要になり、すでにそういった取組を進めているかもしれません。担当課にも情報提供させていただきます。</p>
三浦部会長	<p>私から質問させていただきます。</p> <p>3点ございます。</p> <p>1点目が、「事業者への支援」において、規模の拡大や</p>

	<p>事業の継続を図ると記載されています。昨今、事業承継が難しい、後継者がいないと聞きます。こういった部分がどこかで記載されていると良いと思いますが、どこかに記載されていますでしょうか。</p> <p>2点目として、尾張旭市は若い方が多いのであまり問題になっていないと思いますが、買い物難民みたいな課題は出てきていないでしょうか。地元商店が閉店してしまい、買い物に行く場所がなくなってしまうなど、名古屋市でもそのような問題が起こっています。全体を見てもこういった問題に関する記述がないように思うので、検討の必要があるかと思えます。</p> <p>3点目として、全国的に大規模店舗の撤退があります。尾張旭市にも大きな商業店舗がありますが、考えが異なりますでしょうか。</p>
政策企画係長	<p>1点目の事業継承について、本市でも課題意識があり、継続操業に含まれるのかどうかを担当課に確認をしたいと思えます。</p> <p>2点目の買い物弱者について、本市では、市場の協力を得て、スーパーが比較的近くにない、瑞鳳・旭ヶ丘・旭台地区で移動販売のような青空市を実施しています。地域の方と協働で行っており、地域の方の負担が大きいことが課題となっています。</p> <p>3点目の大型店舗の撤退について、三郷地区にある大型店舗に関して言えば、市とも協定を締結しており、にぎわいが生まれるような取組を協力して行っています。大型店舗の撤退に関して、市の方向性は定まっていない状況かと思えます。</p>
三浦部会長	<p>この他に御意見などはございますか。</p> <p>(意見無し)</p>
三浦部会長	<p>この後にもお気付きの点があれば御発言いただければと思います。</p> <p>それでは、次に資料50、51ページの施策7-2「就労支援・勤労者支援」に移ります。お気付きの点など御発言をお願いしたいと思います。</p>
岡崎委員	<p>全体的な話となりますが、働く人を確保していくことが大切です。市内の事業所に市民が働くのが理想的な形ではあると思えます。尾張旭市に高校や大学が少ないこともあって、若い人が外に出て行ってしまい、そのままその地で就職してしまうこともあると思えます。元々尾張旭市にどんな事業者があり、何をしているかを知らないのが原因ではないかと感じています。中学校での職場体験など、教育現場で積極的に進めているようですが、もっと地元企業さんと一緒にそういった機会を増やしていく必要があると思えます。</p> <p>また、最近感じることとしては、子どもたちが地元で就</p>

	<p>職したいと思っても、一方で親が大きな企業にしないかというようなギャップが多いのではないかと思います。様々な考え方はあると思いますが、親世代の考え方を変化させていかなくてはいけないのかもしれない。</p>
企画課長	<p>地元の企業を知らないのが現状だと思います。</p> <p>他の自治体と共同で、就職説明会などを進めています。まずは、職員が地元の企業を知らなければ始まらないため、職員が地元企業について学ぶ取組も進めています。</p> <p>また、キャリア教育の一環として教育現場では職場見学のような取組を実施していますが、近年はコロナ禍でできていませんでした。今年からは、だんだんと再開していると聞いております。</p> <p>私たちも子どもたちに地元企業を知ってもらえるような取組を行っていきたいと思います。</p>
岡崎委員	<p>最近では、企業見学を親子で受け入れているところもあると聞きました。これも一つの考え方だなと感じています。</p> <p>また、市内に大きな工場が拡張されると聞くので、そういった企業のところで、職場見学をしてもらうのも良いのではないのでしょうか。</p>
政策企画係長	<p>旭野高校の生徒会の生徒に将来の夢や、夢に向かうために行政に求めたいものなどの話を聞く機会がありました。</p> <p>生徒たちからは、岡崎委員の御意見のように、地元のことを知りたいといった話も出ていました。</p> <p>尾張旭市の学校でも地元企業見学を実施しているので、それらがその先の就職に結びつくように担当課に情報共有させていただきたいと思います。</p>
三浦部会長	<p>ありがとうございました。さまざまな角度から御意見をいただきました。</p> <p>他に御意見等はありませんか。</p>
岡崎委員	<p>外国人の就労については、施策7-2に入るのでしょうか。それとも施策7-4に入るのでしょうか。</p>
企画課長	<p>両方の施策に関係しますが、就労については、施策7-2が中心となります。</p>
三浦部会長	<p>どちらにも関わることだというお話でしたが、外国人や高齢者、障がい者の雇用や就労のことはとても大切だと思いますし、これから先、変化があるところではないかと思っています。</p>
企画課長	<p>「就労機会の提供」において、「若者、女性、高齢者など」とさせていただいているのは、外国人をたくさん受け入れ、人口を伸ばしていくというところまで市の方針として踏み込んではいないというところが他方ではあるのかなと思います。</p>

三浦部会長	50ページの「就労機会の提供」について、近隣市町と連携し、地元企業との就職面接会などを開催しているとあるが、どのくらいの頻度なのでしょうか。
政策企画係主査	瀬戸市と尾張旭市で雇用対策協議会を立ち上げ、そこで就職面接会を開催しています。年に1、2回程度かと思います。
三浦部会長	<p>近隣「市町」となっているので、東郷町などが入っているのかと思いました。確認の上、適正な表現にしたほうが良いと思います。</p> <p>次に「勤労者支援の実施」の中にデジタル化などの取組が出てくるが、この「負担」というのが何なのかが分かりにくいので教えてほしい。これは費用面での負担ということで良いのでしょうか。</p>
政策企画係主査	労働相談は、労働をしていく中での問題について相談をしていただく取組です。このため、費用面についての問題を解決するための支援といったものではありません。分かりにくい表現であるので担当課とも相談をさせていただきたいと思います。
岡崎委員	そうすると、労働相談は少ない方が良いということになります。「指標」の労働相談の相談者数は上がった方がよい指標なのかそうではないのでしょうか。
企画課長	御意見のとおり、「指標」の中には目標として定められないものがいくつかございます。本指標についても、成り行き値として目標値を定めるか、もしくは目標なしとすることも検討します。
山本委員	<p>今の若者の中には、夜遅くなってしまうからなどの理由でバイトをできず、突然就職をする方も多し。また、大学を出て希望の就職先が見つからずにバイトをしている方もいます。そういった若者たちが親に頼ることなく働きやすい環境で働くことが大切だと思うとそういった方からの相談件数は増えた方がよいと思います。</p> <p>また、65歳以上の男性の高齢者を見ると、就労が終わったころから4人に1人はうつ病を発症しています。そういったことを考えると外に連れ出すことを尾張旭市の就労支援という形にして、お金がないからではなく、老後を楽しく、生きがいを持って安心してというところをめざしていくと、外出するきっかけをハローワークなどとともに支援し、みんなが少しでも働ける場所、環境を提供するという形にするのであれば、漠然と上がった方がよい指標とな</p>

	<p>るのではないのでしょうか。</p> <p>そういった意味では、相談に来やすい環境を整備し、開かれた相談という場所にたくさん来ていただくことが目標となるのではないかと、そういう方向にしていけることが良いのではないかと思います。</p>
岡崎委員	それは「指標」の一つ目の就労支援になると思います。
政策企画係主査	<p>ありがとうございます。</p> <p>労働相談は、働いているのにお給料がもらえないであるとか、社会保険に入りたいのに加入させてもらえないなど、働く上での問題を御相談していただく場所です。</p>
山本委員	働きたいけど、しっかり働きたいわけじゃなく、そういったことをふるさとハローワークに相談するというのは、就労相談になるということですね。
政策企画係長	そうですね。「指標」については、「主な取組」の進捗を管理するために設定していますが、再検討の余地があると思います。
岡崎委員	「現状と課題」にリスキリングとあります。これは働きながら新しいスキルを身に付けていくことが目的であるかと思います。そういったものへの支援を「指標」として設定しても良いと思います。資格の取得や外国人の日本語研究なども良いと思います。
三浦部会長	ありがとうございます。労働相談の「指標」については再検討が必要かと思います。また、山本委員から発言のあったところでは、引きこもり対策などもあるのかと思います。そういった方たちの社会参加のようなことについても一度御検討していただければと思います。
政策企画係長	6ページの「高齢者福祉の推進」があります。ここに「高齢者の生きがいづくりと社会参画」という「主な取組」があります。これはボランティアも含めてはいるが、先ほどお話のあったところにつながるものかと思います。
三浦部会長	他に御意見などはよろしいでしょうか。
	(意見なし)
三浦部会長	<p>これからもお気付きの点があれば御発言ください。</p> <p>それでは、続いて資料52、53ページの施策7-3「まちなぎわいの創出」について、御発言をお願いしたいと思います。</p>
岡崎委員	前回の部会でも発言がありましたが、地域のお祭りについて、市が行うお祭りも大切だと思いますが、地域の催しも大切だと思います。瀬戸市や長久手市を見ると、地域力

	<p>向上のような地域団体がある。全体の催しだけでなく地域のことも大切に作る視点が必要だと思います。</p> <p>それから、もう1点として、花火大会についてよく話を聞きます。最近、各地で花火大会が再開されていますが、尾張旭市は万博の時に警備面などを理由にやらなくなったと記憶しています。そういった課題は解消されているのではないかと思いますがいかがでしょうか。</p>
企画課長	<p>稲葉町で行われていた花火大会は安全確保の関係と、幹線道路の交通量が増えたことにより実施ができなくなりました。その後、城山公園で開催している夏まつりでレーザー光線とともに花火を打ち上げたこともありましたが、花火のカスが近隣に飛んでしまうなどの問題があり、現在は行っておりません。</p> <p>多くの方から復活してほしいというお声をいただくのも確かではありますが、相当数の苦情をいただくのも現実であり、主催する側としてはなかなか難しいところです。</p>
岡崎委員	<p>なんとなく、下を向いて歩いている人が多いように感じるため、花火は上を見上げないと見えないので、多くの人が上を見上げながら笑顔になる様子が良いなと感じます。</p>
企画課長	<p>1点目の地域コミュニティのことについて、先週、今週と市内の各所で地域の盆踊りが開催されています。市長からもすごい人出であったと話がありました。昼間がかなり暑くなっているので、夕涼みがてら子どもたちと触れ合える場として楽しみにしていただいていると思います。</p>
高橋委員	<p>地元の盆踊りに行きましたが、すごい人でした。人が集まることは楽しくて良いですね。</p>
岡崎委員	<p>インバウンドの記載があるのが気になります。</p>
三浦部会長	<p>昔は、3割がインバウンド、残り7割が近隣市町というデータがあったと思います。インバウンドを強調するのも良いですが、近隣市町から来ていただくことも大切であると考えます。</p>
岡崎委員	<p>国内の観光客が瀬戸市などに行く際にどうやって尾張旭市にも立ち寄ってもらうのかという部分が大切だと思います。</p>
政策企画係長	<p>担当課もインバウンドだけという風には考えていません。言葉の使い方を整理したいと思います。</p>
三浦部会長	<p>観光という言葉がここぐらいにしか出てきません。全庁的に、観光分野はこれぐらいの立ち位置でよろしいでしょうか。</p>

企画課長	<p>まさにおっしゃられるとおりで、本市は観光地というわけではないため、比較的市がしっかりと進めることに注力していく表現となっております。</p> <p>また、インバウンドについて、すぐに外国人を増やしていくということは難しいとは思いますが、時代背景的に国が相当な支援をしてくるのではないかと思います。そういった支援の活用を念頭に置きながらインバウンドというキーワードが入っています。</p>
三浦部会長	<p>尾張旭市のベッドタウンという地域柄をみますと、無理なことを記載する必要はなく、逆にしっかりと地に足を付けた計画としていくことがより建設的だと思います。そういった意味でメリハリはとても大切です。</p>
山本委員	<p>紅茶フェスティバルに行ったことをきっかけに子どもが紅茶の入れ方を知りたいな、紅茶を飲みたいなと思うようになったことを考えるとイベントに参加すると事はとても重要だと思います。</p> <p>尾張旭市が紅茶を推していくのであれば、子どもたちに紅茶を知ってもらうことが大切で、学校の授業でもそういったものを取り入れてはどうでしょうか。授業に取り入れ、紅茶のおいしい入れ方や作法を子どもたちが知ることによって、紅茶を買ってみたい、今日はどんな香りの紅茶を飲みたいなどの楽しみにつながっていくと思います。</p> <p>尾張旭市と紅茶を結び付け、未来の子どもたちが尾張旭市出身だからおいしい紅茶の入れ方を知っているよって言えるように育ててほしいなと思います。どこかのタイミングでみんなやりなさいっていうのは難しいけれど、尾張旭市の子はみんなおいしい紅茶の入れ方を知っているよって言うとなると小学校とかに必ず全員みんなで経験することが良いかと思います。</p> <p>高校や大学に行ったときに尾張旭市の子たちは紅茶に詳しいよって言われるような子たちになると嬉しいなと思います。こういったことが後々、尾張旭市と紅茶を結び付けることにつながるのではないのでしょうか。</p> <p>いちじくについても、いちじくのおいしさを分かっていない子もいます。給食で提供されたり誰かが持ってきてくれて初めて食べるという子が多いと思いますし、食べてみたらおいしかったりすることを考えると、食べるきっかけがないといけないし、尾張旭市では有名だよって言うだけでなく、口に入れさせてあげることが大切だと思います。</p>

	<p>おいしさを感じてもらうことが大切だと考えると小さいころから教育の一環として入れてもらえると良いと思います。</p> <p>それがまちのにぎわいにつながっていけば良いかなと思います。</p>
三浦部会長	<p>今御発言いただきましたように支援としては様々なものがあると思います。どちらかという郷土愛などにつながる部分があるのではないのでしょうか。改めて位置付けを検討する必要があると思います。</p>
三浦部会長	<p>それでは、続いて資料54、55ページの施策7-4「多様性社会の推進」について、御発言をお願いします。</p>
山本委員	<p>「指標」のところの「審議会などにおける女性の割合」とあるが、それは「多様性社会の推進」としての指標となるのでしょうか。</p>
企画課長	<p>ジェンダー平等というところで、20年ぐらい前から力を入れて取り組んでいます。かつては男性の占める割合が多かったこともあり、こういった目標を定めながら取り組んできました。最近では、女性の割合が4割近くまで上がっている状況です。日本社会全体としては、政治家や会社役員にはまだ女性が少ないといった現状から行政としてできる目標として定めています。</p>
山本委員	<p>ジェンダーとして多様性という意味で表現するのであれば、「女性の割合」とすること自体が、ジェンダーの認識がないのではないかと思います。</p>
企画課長	<p>御意見のとおりで、考え方が男女共同参画からジェンダー平等の方にもう少し幅広く捉えられる、性の多様性を認めることや、LGBTQの理解をしている市民を増やすとか、そういうことの方がもしかすると近いのかもしれませんが。個別計画に掲載しております男女共同参画プランが令和6年度までとなり、次なるプランで引き続きどんな新しい視点で、どんなところを目指していくのかを検討する必要があるという認識です。</p>
山本委員	<p>男女関係なく社会進出を進めるという考え方であれば、男女の比率の変化を取得していくというのはどうでしょうか。女性の割合としてしまうと、たぶん女性は良く思いません。男だから女だからと分けるのではなく、男女の割合で考え、これまで男性の社会が多かったが、多様性を推進することによって男女比をこれぐらいにするといった視点で指標をとり、結果として尾張旭市では女性の比率がこん</p>

	<p>なに増えていますとした方が良いかと思えます。</p>
企画課長	<p>担当課とも共有し検討していきたいと思えます。こちらについては、他自治体や他地域との比較という面で尾張旭市の立ち位置を確認することもできるのかと思えますし、これまで様々なところで使われてきた指標の一つでもありますし、代表的なものの一つでもあります。</p>
山本委員	<p>それでも出せるとは思いますが、尾張旭市はそうではなく、女性の割合ではなく、男女比で出していますとお話しながら、比較するときにはちゃんとデータがありますよという風に準備しておいた方が周りには分かりやすいのではないのでしょうか。</p> <p>ジェンダーっていうのは、古い日本人の男性が言っているだけで、私たちの世代では当たり前になっています。洋食が好き、和食が好きと同じで、男が好き、女が好きというわけではなく、性別は2つしかないの、どちらが好きでも良いのではないかと思えます。スカートをはいている男性だっているし、ブラジャーをしている男性だっている、化粧をしている男性だって増えてきているのに、そういったことを堅苦しく考え、他と同じように指標を設定していくというよりは、みんなが認めて当たり前の世の中になってほしいのであれば、意識を下げるしかないのかと思えます。今までの古い考えのまま進んでしまうと、結局それぞれの人権が尊重されないことになってしまいます。</p>
企画課長	<p>この「指標」については、時代の転換点の中にあるのかと思えます。この「指標」が20年間ぐらい使い続けているものなので、それを引き続き使用するのか、違うものにしていくのかを新しい価値観とかそういったものを入れ込んでいくのか、捉える数値としては同じなのかもしれませんが、山本委員の意見にあったような表現とするのかを担当課と検討したいと思えます。</p>
三浦部会長	<p>「指標」に日本語教室参加者数とあるが、どのような日本語教室でしょうか。</p>
企画課長	<p>尾張旭市として最近大きく変わったところです。昨年ぐらいまでは地元の国際交流を進めているボランティア団体の方が自ら立ち上げられた日本語教室が、唯一あり、主に働いている方に対して日本語を教えていただいていた。コロナ禍でこういった活動が難しい時期があり、東南アジアを中心として外国籍の方が増えてきておりますので、行政としてもそういったところに注力すべきではない</p>

	<p>かというところで、行政が直接、日本語教室の講師の養成講座を実施し、市から直接報償を支払う日本語教室を立ち上げたところです。</p> <p>これまでボランティアが中心でしたが、そのボランティアさんには引き続き御協力していただいて、市としての日本語教室も並行して行う形となります。学校でも困る子どもが増えたりしているようです。また、子どもは日本語を話せるが親御さんが困っているなどのケースもあるようで、そういったニーズが本市でも増えているようです。</p>
岡崎委員	<p>講座は、平日だけでしょうか。最近入った社員17人の内、おそらく9人は外国籍ではないかと思えます。兼業や副業といった整理は必要だと思えますが、地域の連携といった部分では、そういった社員が講師を行うと4～5か国程度対応できると思えます。</p>
企画課長	<p>市の日本語教室は土曜日、ボランティア団体が行っている日本語教室は水曜日に行っているようです。まだ始まったばかりなので、それぞれ10数名の参加と聞いております。</p>
岡崎委員	<p>言語は何言語ぐらいですか。</p>
企画課長	<p>インドネシアとかフィリピンとか、ネパールとか、東南アジアの方が来られており、案内、リーフレットは、日本語のほか、7か国語で表記しています。</p>
三浦部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p>
	<p>(意見なし)</p>
三浦部会長	<p>基本目標7の各施策について、御意見をいただきました。改めまして、48ページから55ページのところで御発言などはありますでしょうか。</p>
	<p>(発言なし)</p>
三浦部会長	<p>資料8の7ページ基本目標7の記載内容について調査審議を行いたいと思えます。ここまで各施策についても御意見などをいただいておりますので、それらを踏まえてお気付きの点や御質問、御意見、御提案や賛同する点など御発言をいただきたいと思います。</p>
岡崎委員	<p>2行目、全ての働き手とあるが「働き手」が今に馴染まないのではないかと思います。意味は通るが「皆さんが」などの方が馴染むのではないのでしょうか。</p>
三浦部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>こちらについても御意見をいただきましたので御検討い</p>

	ただければと思います。
三浦部会長	<p>それでは、次に次第の2-(2)、「めざすまちの未来像」、「まちづくりの基本方針」について改めて見ていきたいと思 います。</p> <p>こちらについては、6月に開催しました全体会で企画課か らの説明を受け、その後、議論を進めていたところですが、 より細かな施策を議論していく中で、お気付きの点などもあ るかと思しますので、再度御意見をいただきたいと思いま す。</p> <p>具体的には、資料8の2・3ページの「めざすまちの未 来像」と「まちづくりの基本方針」を見て御意見、御提 案、賛同する点など御発言いただきたいと思います。</p>
山本委員	<p>2番目の「「自分らしく」を応援します。」の2行目が 気になります。いつも気になるのは、誰もが「自分らし く」いられる暮らし方や働き方に自らチャレンジしたい雰 囲気という部分です。個性を認められれば、自らチャレン ジしたいという雰囲気になるのでしょうか。個性を応援し てもらってないからチャレンジしていないというわけでは ないと思います。</p>
政策企画係長	<p>個性や能力を発揮できる社会の推進と、自らチャレンジ したくなる雰囲気づくりを「また」でつないでいます。こ れは、2つの文章を別々と捉えていただき、前段では、個 性や能力という部分を尊重していくということにプラスし て、後段以降では、自分らしくいられる暮らし方や働き方 に自らチャレンジする際には、例えば生涯学習の分野な ど、自分が何かをしたいというときにそんな活動を応援で きるような体制を構築していきたいということイメージ しています。このように御理解をいただきたいと思いま す。</p>
山本委員	<p>そういう風には読み取れません。</p>
三浦部会長	<p>チャレンジという言葉が前向きでいいなと思う一方で、 チャレンジしたくても難しい環境の方もいるのかもしれま せん。そういった部分を含めて一度検討をしていただくこ ととしたいと思います。</p> <p>他に御意見はございますでしょうか。</p>
	(意見なし)
三浦部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これで第3部会として担当の範囲といており ました、「基本目標5、7、8」の調査審議、また、基本 構想の内の「めざすまちの未来像」と「まちづくりの基本</p>

	<p>方針」の調査審議が終わりました。ここで、御意見の漏れがないかを確認したいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>また、本部会の調査範囲以外の部分でも企画課へ伝えたいことがあればお伺いをしようと思います。</p>
山本委員	<p>施策5-3「消防・救急体制の充実」の「主な取組」の2点目「消防・救急体制の強化」について、デジタル技術を活用したとあるが、進んでいるのでしょうか。全国的な講義などでも、尾張旭市は、市民の協力を得て1秒でも早く心停止した患者を救えるように取り組んでいると聞きます。そういった取組への募集をしていると聞くので私も参加しようと思っても、講義に参加しないといけないと聞きました。コロナで講習とかが実施できずにダメになってしまって、実現できていません。私はAEDについてインストラクターをする資格を持っていて、どちらかという伝えます。名古屋掖済会病院の院長である北川先生も御存じなぐらい、愛知県の中でも尾張旭市は市民と団結していますし、市内のコンビニ全てにAEDを設置しているのは、尾張旭市だけであると講演で話されています。AEDがコンビニにあるというのは、尾張旭市の特性であることを誰も知りません。当たり前のようにコンビニにあります。名古屋市や長久手市に行ってもあるわけではないです。こういった尾張旭市のメリットが全然生かされていないと思います。AEDの講習会に参加してくださいと子ども会や自治会のお知らせで回ってきますが、参加する人は自治会長さんやこれまでに講習を受けてきた人ばかりだと思います。もちろん、皆さん忘れるし、機会がないとできないから、何回も受講することは大切だと思いますが、自分の大切な人が目の前で心停止したときに動けるかという絶対動けません。自分がそうやってお伝えしていても、止まってしまうのが普通だと思います。尾張旭市では、小学生は確か5年生で全員に指導していると思います。だから、中学2年生ぐらいまでは記憶があるのでみんな「できるよ」って言います。そういった市民を増やしていくことが1番「救急体制の充実」に近づくと思いますし、全国レベルの講演で発表しているのにも関わらず、尾張旭市民ができないとなると、すごいデメリットだなと思って、毎回そういった講演を聞き、そのたびに大丈夫かなと思っています。それなら、私が小学校でも中学校でも高校でも大学でもどこでも指導に行けるよ、と思いますが、できる人は</p>

	<p>できる、できない人はできないとなってしまうことが残念です。本当に心停止かどうかという基準も皆さん定かではないと思います。最近のAEDは高性能なので、ちゃんと分析してくれて、解析した上で、ボタンを押す押さないを判断してくれることがメリットだと思います。倒れた方の反応がないので心停止かと思い、AEDを装着すると、機械が判断してボタンを押さなくていいと教えてくれるし、例えボタンを押しても作動しないというAEDの賢さがあります。それにも関わらず、小学校・中学校の子どもしか頼りにならない。ましてや、高校生になると受講したけど忘れてしまいます。1番その世代が急激な心停止が起りやすい世代です。</p> <p>もう少し充実してくれると嬉しいなという気持ちがあります。記載するだけじゃなくて、何かしらの行動に現れるように。そうでないと、講演していただいている先生たちに申し訳ないと思います。</p>
企画課長	<p>市民も全てのコンビニエンスストアにAEDが設置されていることが特別なことであるという認識は、あまりないのではないかと思います。</p> <p>尾張旭市では、講習などを受講されて登録されたかたに、心肺停止が予想されるかたからの救急通報が入った際にスマートフォンのアプリを通じて通報する全国的にも珍しい取組をしています。</p> <p>山本委員がおっしゃられたように、すばらしいシステムでもちゃんと使える制度になっていかないといけないと思います。それには繰り返しがすごく大切です。ここ数年はコロナ禍で講習会もできていませんでした。先日、久しぶりに親子で参加する講習会ができ、メディアにも取り上げられました。そうした取組をしっかり継続していけるように消防にも伝えたいと思います。</p>
山本委員	<p>私も登録したいと消防には伝えているができていません。講習受けられないことが登録できない理由になっています。私も登録されればすぐに駆け付けて蘇生してあげるのと思っています。ご近所さんは、救急車が来ると、待っているけどいいのかと私を呼びに来る。そういう時にはAEDが必要なのかどうかなどを観察しながら、消防隊が来るまでの対応をしています。</p>
政策企画係長	<p>登録の再開状況については消防に確認しておきます。</p>
岡崎委員	<p>講習会も良いですが、会社などでAED等の講習を出前</p>

	<p>講座のような形で実施されると良いかと思えます。AEDが身近にあっても、接する機会がないと実際には動けないと思えます。</p>
高橋委員	<p>コロナ禍でできていませんが、地区の防災訓練等では講習を行っていました。私の友人もそれで助かった人がいます。</p>
山本委員	<p>社会復帰率が大きく変わるのでぜひ覚えていただければと思えます。</p>
三浦部会長	<p>ありがとうございました。 続きまして、次第の3「その他」に移りたいと思えます。企画課より、説明をお願いします。</p>
企画課長	<p>本日も大変参考となる御意見ありがとうございました。 前回、7月3日に開催しました会議に出席された委員の皆さんのお手元に、第2回部会の会議録案をお配りしております。 会議録については、皆さんに御確認いただいた後、市ホームページで公表することを予定しておりますので、お忙しいところ大変恐縮ですが、内容を御確認いただき、修正が必要な個所などがございましたら、8月15日（火）までに企画課に御連絡いただければと思えます。 また、前回の部会で御説明しましたとおり、前回と今回で本部会での調査審議範囲を一通り御確認いただきました。 次回の部会までに、皆様から頂戴しました御意見を企画課にて、取りまとめさせていただきます。取りまとめについては部会長にも内容を見ていただきながら調整をさせていただきます。取りまとめがおおかたできあがったタイミングで部会長に御連絡させていただきます。 取りまとめ方法については、基本目標ごとに頂戴した意見をまとめさせていただくことを予定しております。 次回の部会では、その取りまとめ内容を皆様で御確認いただくことを予定しており、各部会での調査審議結果を9月22日に開催を予定しております第3回全体会で部会長より御報告いただき共有することを予定しておりますので御承知おきください。あらかじめ御承知おきください。 次回部会は、8月28日、月曜日、午後1時30分から前回の会議を開催した市役所の3階の302・303会議室で開催いたしますので、皆様大変お忙しい中、恐縮ですがよろしくをお願いします。</p>

	企画課からは以上でございます。
三浦部会長	ありがとうございました。 ただ今の説明に対し、委員の皆様から御質問等はございますか。
岡崎委員	まとめた資料を次回の部会で審議することになると思いますが、その資料は事前にもらえるか。
企画課長	事前に配布できるように調製させていただきます。
三浦部会長	ありがとうございます。 その他、委員の皆様から何かございますか。
	(意見なし)
三浦部会長	企画課からは何かございますか。
企画課長	皆様、本日は、長時間に渡り御審議いただき、誠にありがとうございました。暑い日が続いておりますのでぜひお体をご自愛ください。次回以降も引き続きどうぞよろしくお祈いします。 以上でございます。
三浦部会長	以上をもちまして、第2回第3部会の日程を全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。次回もよろしくお祈いします。